

大阪市立中央図書館における多文化サービス

大阪市立中央図書館 利用サービス担当 大山尚子

1. 大阪市立中央図書館 外国資料コーナー

概要

平成 8 (1996) 年 7 月の中央図書館リニューアルオープンと同時にコーナー設置 (図書館独自で実施)。

英語・中国語(簡体字、繁体字)・韓国/朝鮮語など、大阪市内に在住者数が多い言語を中心に、図書・雑誌・新聞・AV 資料を収集。2012 年 1 月より電子書籍サービスを開始。

蔵書

- ・ 図書 2014 年 4 月現在 13 言語、約 53,000 冊 (うち開架冊数 約 20,000 冊)
英語 24,500 冊 韓国/朝鮮語 9,400 冊 中国語(簡体字・繁体字) 9,100 冊
ポルトガル語 1,750 冊 スペイン語 2,100 冊 タイ語 1,100 冊
インドネシア語 1,050 冊 ベトナム語 700 冊 フランス語 570 冊
ドイツ語 650 冊 ヒンディー語 260 冊 マレー語 90 冊
タガログ語 (フィリピン語) 670 冊
- ・ 雑誌 2014 年 4 月現在 12 言語、約 100 誌
英語、韓国/朝鮮語、中国語(簡体字・繁体字)、イタリア語、インドネシア語、タイ語、
スペイン語、タガログ語、ドイツ語、フランス語、ポルトガル語、マレーシア語
- ・ 新聞 2014 年 11 月現在 15 言語、約 26 紙
英語、韓国/朝鮮語、中国語(簡体字・繁体字)、アラビア語、イタリア語、シンハラ語、
スペイン語、タイ語、ドイツ語、ヒンディー語、フランス語、ベトナム語、
ポルトガル語、マレーシア語、ロシア語
- ・ AV 資料 2014 年 4 月現在 CD・ビデオ 5 言語、約 1,700 タイトル
英語、韓国/朝鮮語、中国語、スペイン語、ポルトガル語
- ・ 電子書籍 2014 年 3 月現在
英語電子書籍など 約 3,500 点

収集方針

- ・ 各言語とも、大阪市内在住・在留外国人への資料提供。料理や育児、仕事、暮らしに役立つもの、スポーツや趣味・娯楽のための資料提供に重点を置いて収集。
- ・ 英語の図書のうち、日本語学習や日本の年中行事・ガイドブックなど、日本に関する資料を「Books on Japan」として収集し別置。
- ・ 外国の言語・文化を学び理解したい日本人も利用できるコーナーを目指す。

- ・地域図書館（23 館）における多文化サービスをバックアップする。

大阪市の外国人登録 *別紙 1 参照（大阪市ホームページより）

平成 26（2014）年 3 月末現在の大阪市における外国人住民の国籍別の調査表によると、多い順に、韓国及び朝鮮籍の方が 72,980 名、中国籍の方が 26,094 名、フィリピン籍の方が 2,915 名、台湾籍の方が 2,369 名、ベトナム籍の方が 2,141 名…となっている。収集方針に外れないように、定期的に統計をチェックし、購入図書言語を決めている。

多文化サービス

- ・講座・講演会の開催

リニューアルオープン（1996 年）当初より、国際交流を促進するための行事を、図書館独自で開催。

平成 11（1999）年度より「国際交流フォーラム」として、平成 17（2005）年度からは、「感じてみよう！国際交流」をテーマに行事を開催。

大阪市では、平成 10（1998）年 3 月に「大阪市外国籍住民施策基本指針」を策定し、国籍や民族などの違いにかかわらず、一人ひとりがそれぞれの違いを認め合い、理解を深め、ともに社会の一員として暮らし、活躍できる「すべての人の人権が尊重される社会」、「豊かな多文化共生社会」の構築にむけ、取り組みを開始。（平成 16（2004）年 3 月に改訂あり。）

これを機に、中央図書館で実施していた国際交流関連の事業は、多文化共生社会の実現に向けての国際理解・交流の促進の取り組みとして位置づけられ、現在に至る。

- ・「いろんなことばのおはなし会」の実施

平成 20（2008）年度に子ども向けの行事として、ボランティアの方々の語学協力のもと実施開始、2009 年 8 月より、定例の行事として実施するようになる。

偶数月の第一日曜日 午後 1 時 30 分～2 時

英語・中国語・韓国/朝鮮語による絵本の読み聞かせや手遊び、絵本の紹介、歌を歌うなど

平成 23（2011）年度より、年 6 回実施のうちの 1 回を特別版として、90 分の行事を実施。

「感じてみよう！国際交流子ども版 いろんな国のくらしとあそび」をテーマに、外国のくらしや遊びが体験できる行事として実施。

定例のおはなし会の案内は、年間版と、各回の案内の英語版・中国語(簡体字)版・韓国/朝鮮語版の、計四種類のチラシを作成(裏面は日本語版)、ホームページのお知ら

せのページからも閲覧可能。

特別版の案内は、国際交流を目的とした行事のため、日本語版のみチラシを作成、ホームページのお知らせのほか、ツイッターやメールマガジンでも配信。年間版のチラシにも開催日のみ案内あり。

・ハンブルク市中央図書館と図書館交流協定を結ぶ

ハンブルク市と大阪市の友好都市 20 周年を記念し、平成 21 (2009) 年に図書館交流協定を結び、図書資料などの交換を実施。毎年、当館から 100 点の各種和書を寄贈し、ハンブルク市からも児童書や小説、ドイツ語学習書、地図、料理の本など、ドイツ語図書 100 点の寄贈を受ける。

・アメリカンシェルフ覚書締結

平成 25 (2013) 年に、駐大阪・神戸国際領事館 関西アメリカンセンターが実施するプロジェクトの提携先に当館が選ばれ、覚書を締結。米国の歴史・文化等への理解を促進し、米国について学ぶ機会を提供することを目的とし、小・中学校の教科書の寄贈を受けるほか、講座・講演会等を実施。

覚書調印式での基調講演 「アメリカの図書館、書店、情報サービス事情」

講座 「アメリカ留学の魅力とその方法」、他パネル展など

2. 利用状況

貸出状況など

言語別では、一般書、児童書どちらも英語、中国語、韓国/朝鮮語の貸出が多い。

分野別では、一般書は小説の貸出が多く、児童書は絵本や物語の貸出が多い。

(ただし、外国人利用者に限った統計はとっていない)

図書購入のリクエストは、書店にその都度購入依頼が可能なアルファベット言語が多いが、中国語や韓国/朝鮮語のリクエストも、小説やエッセイ、語学学習書、辞書などの実用書など、少しずつ増えている。ただし、外国人利用者からの予約はまだ少ない。

講座・講演会の実施例一覧 *別紙 2 参照

スタート当初は、大人だけでなく小さな子どもも楽しめるような行事にしたいと考え、珍しい民族楽器の演奏、民族の歌を紹介する音楽会や、民族衣装での舞踊などを盛り込んだ内容となっている。大ホールで実施、多数の参加者あり。

平成 21 (2009) 年度からは、子ども向けの行事として「いろんなことばのおはなし会」の実施を開始したため、テーマを掘り下げて、少人数での交流を深めてもらえる内容に変更。大学生や社会人、高齢者の参加が増えた。

「いろんなことばのおはなし会」の実施例 *別紙 3 参照

- ・定例のおはなし会では、赤ちゃんから小学校低学年くらいの親子連れが多く、平均して 15～30 名ほどの参加者あり。おはなし会終了後も、30 分ほど自由に絵本を読んだり、お話をしたりする時間をもうけて、交流を深めている。
- ・特別版の行事では 45～60 名の参加者あり。特別版は時間が長いため、途中での入れ替わりも多い。どの回でも、日本人の子どもたちが多く、外国人の親子の参加も見受けられる。

3. 今後の課題と国立国会図書館との連携

外国語版の利用案内の整備と語学協力者との連携

平成 26 (2014) 年 1 月より、新システムに切り替わり、サービス内容を大きく変更した。

現在、外国語版の利用案内の整備を少しずつ実施しているが、翻訳していただける語学協力者の方々との連携が大きな課題となっている。外国語資料を所蔵する国立国会図書館や公共図書館、外国語学科のある大学図書館との情報交換をはじめとした連携が広がれば良いと考える。

システム変更前に作成・配布していた外国語版の利用案内は、12 言語・13 種類ある。

英語・韓国/朝鮮語・中国語(簡体字・繁体字)・ポルトガル語・スペイン語・
インドネシア語・タイ語・ベトナム語・フランス語・ドイツ語・ヒンディー語・
タガログ語 (フィリピン語)

資料の充実・連携

外国資料の購入については、予算の縮減に加え、レートの変動で購入金額が変更するため、現在は円安の影響で、購入可能な雑誌や新聞のタイトル数を削減せざるをえない状況となっている。さらに、当館では、アルファベット言語以外の言語の外国資料の購入は、1 年に 1 回まとめて行っており、リクエストに速やかに対応できていない。

また、おはなし会などの行事で、ボランティアの方々が読み聞かせや紹介に使用したい絵本を所蔵していないことも多く、送料無料で借り受けが可能な大阪府下の公共図書館から取り寄せることもある。

外国資料を所蔵していない図書館も多いため、国立国会図書館からも、事業のための資料の借り受けなどが送料無料できると大変助かる。

大阪市立図書館では、語学に精通した司書を採用している訳ではないため、多文化サービスに充分対応できていないこともあり、外国資料の選定からデータ作成に至るまで、効率的な作業ができない面がある。限られた予算を多文化サービスのためにより効果的に使えるように、国立国会図書館が集約しておられる、図書や雑誌、新聞を選定する時に参考になるような情報や便利なツールなどを、お教えいただければありがたい。特に、専門的でない一般書の情報、また、タイ語やベトナム語、タガログ語、ヒンディー語などのマイナーな言語の資料情報がほしい。

外国人利用者の要望の把握

外国資料を担当している司書が必ずしも語学に精通していないこともあり、相談カウンターでの対応でも外国人利用者に十分な案内などできないことがある。また、ニーズの把握もできているとは言いがたい。

図書館カードの申込みの用紙は、新システムになり、A4 サイズの用紙に変更されたが、図書のリクエストの用紙は、サイズが小さいままで、アルファベットやハングルでの記入が困難である。外国人利用者の要望を聞き取れるようなサービス拡充を検討する必要があると認識している。

国立国会図書館では、どのような配慮や工夫をしているのか、具体的なとりくみをお教えいただきたい。